

弘前大学学報



弘前大学 クリスマスツリー

第 93 号
平成23年12月号

学内ニュース

○平成23年 仕事納めの挨拶	-----	1
○「弘前大学チェルノブイリ視察団」がチェルノブイリを視察	-----	3
○平成23年度第12回弘前大学FDワークショップを開催	-----	4
○弘前大学男女共同参画推進室 第4回セミナー開催	-----	5
○弘前大学名誉博士称号授与式を挙	-----	6
○平成23年度 弘前大学研究成果公開シンポジウム 「東日本大震災復興に向けた弘前大学の研究展開」を開催	-----	8
○「白神自然環境研究所シンポジウム」を開催	-----	9
○「学長と若手事務職員懇談会」研修報告会を開催	-----	10
○平成23年度弘前大学FDシンポジウムを開催	-----	11

諸会議

-----	12
-------	----

人 事

○人事異動	-----	14
-------	-------	----

主要日誌

-----	15
-------	----

学内規則等の制定等

-----	16
-------	----

平成23年 仕事納めの挨拶



平成23年仕事納めに当たり、ご挨拶申し上げます。まず弘前大学の全教職員・学生の皆さん、今年一年誠に苦勞の多い年でありました。3月11日の東日本大震災の突発と、それに続いた東京電力福島第一原子力発電所の放射能事故と、そして、それに派生して起こった停電、夏の電力不足等々へ、皆さんは次々と対応していただきました。こうした皆さんの対応に、学長として心から感謝致しております。こうしたこの一年を、国立大学法人の中期目標と、東日本大震災について振り返ってみます。

まず、国立大学法人中期目標についてであります。第1期中期目標期間の中間評価で、本学が全国最下位と評価されましたことから、本学構成員が第一期の残りの期間を評価の向上にむけて努力したところであります。その後今年になって公表された第1期中期目標期間の評価は最下位を脱し、それなりの評価が得られましたが、まだ本学の歴史と規模から考えますと満足すべき状態ではありませんでした。

こうした評価の出ることの予想と、第2期に国立大学が強く求められた国立大学の“機能別強化”について考慮して、第2期中期目標の策定に当たりました。こうして策定された、本学の第2期中期目標の前文を改めて読んでみます。

「本学が立地している青森県の特性、すなわちエネルギーに関わる豊富なポテンシャルや原子力施設及び核融合関連施設、地球温暖化・環境に関わる世界自然遺産白神山地、食料危機・食の安全に関わる食料基地等を有するこれらの特性を、本学の教育・研究及び社会貢献の中心課題として、世界と地域に対し、人材の育成と情報の発信を行うことを、その目標とする」とあります。

本学は、これらエネルギー、環境、食を中期目標の柱として第2期中期目標期間に入ってから、青森市に「北日本新エネルギー研究施設、後に研究所」、世界自然遺産白神山地の弘前側に、「白神自然観察園、後に白神自然環境研究所」、そして本町地区に「被ばく医療教育研究施設、後に被ばく医療総合研究所」を文部科学省の予算ではなく、自前で立ち上げました。これに文部科学省予算で我国初の被ばく医療を担った「高度救命救急センター」を立ち上げ、本学は第2期中期目標の機能別強化に向けて着実にその歩みを進めていました。

ところで、このエネルギー、環境、そして食の問題は、本年4月に実施予定だった第4期科学技術基本計画（案）に示されており、また東日本大震災後修正された第4期科学技術基本計画には、被ばく医療も追加記載されました。しかし、本学のエネルギー、環境、食及び被ばく医療は、第4期科学技術基本計画（案）が策定される以前に、本学の第2期中期目標に明記されており、国立大学関係者を驚かせました。第2期中期目標期間に入り、着実に歩みを進めていた矢先、3月11日の東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の放射能事故の発生であります。

本学は、事故発生直後から、地震・津波の被災地へのDMAT即ち、災害派遣医療チームの派遣や石巻赤十字病院への9次に渡る医療チームの派遣をし、また、人文学部では、ボランティアセンターを立ち上げて、教職員・学生、それに市民も加わって岩手県野田村にボランティア活動を長期に渡って行いました。

また、原子力発電所の放射能事故地域に対し、原子力災害現地対策本部・Jビレッジへ総括医師を含む3チーム23名の派遣、「被ばく状況調査チーム」即ち「サーベイチーム」には約4ヶ月半に渡り、20チーム365名を派遣し、更に「一時立ち入りプロジェクト」には11チーム202名、計約600名が派遣されました。

本学は、幸い被災大学ではありませんでしたが、それにしても多くの人と物が、この東日本大震災の対応に投入されました。学長としては、関係の皆さんに心から御礼を申し上げます。

一方、原子力発電所の放射能事故が起こり、我国の原子力事故への対応の不備が表面化すると、弘前大学の被ばく医療総合研究所と、緊急被ばく医療を担った高度救命救急センターが既に弘前大学に設置されていること、そして大学院保健学研究科を中心として多くの被ばく医療専門家が育っていたことに、文部科学省を始め、多くの人を驚かせました。また、原子力エネルギーの代替エネルギーが問題になってみると、弘前大学では、北日本新エネルギー研究所が設立されており、自然エネルギーに特化した研究が既に展開されていることで、また人々を驚かせました。更にチェルノブイリ原子力発電所事故後の経過から、我国の福島の放射能事故は終息どころか、拡大が懸念され、我国の表土・水・大気等の環境汚染が問題になってみると、弘前大学には既に白神自然環境研究所が設置されている、しかも、白神の放射能汚染前の植物標本500種の100年保存の作業を開始しているのに、またまた多くの人が驚かせました。

本学のこの様々な機能別強化のための中期目標・中期計画は、第4期科学技術基本計画やこの度の福島原子力発電所事故を想定したものではなく、あくまでも地方大学として地域に密着した機能別強化の中から生みだされたもので、本学教職員の誇りとすべきものと思います。

そしてこの一年、人文学部、教育学部、理工学研究科、農学生命科学部、共に大学院の見直しに入っています。医学研究科と附属病院は施設の基盤整備が完了し、後は教育・研究及び診療の質をあげることにあり、保健学研究科は保健学科設置10周年記念式典を終え、いよいよ校舎の耐震改修と一部新築となりました。全部局が大きく前進に向かって一年と私は思います。

更に、この一年、関係者の努力により文部科学省科学研究費補助金の採択も増え、少子化による入学者減の中で入学志願者を増やし続けている数少ない大学の一つが本学であり、不況及び東日本大震災により学生の就職率が低迷している中で、本学就職支援センターの活躍により、本学の就職率は全国平均を上回っております。そして、施設の整備も、教育研究施設に過分の予算の内示があり、本学の整備は最終段階に入りました。これは今年の福島県の被ばく災害地への本学の働きが大きく評価されているからと思います。

この一年、教職員の皆さん、本当に御苦労をおかけしました。しかし、それが高く評価され、報われたと思います。そして我々が得たものは、他にはない弘前大学の自信と誇りだったのではないでしょうか。

これを礎にし、来る年を希望をもって迎えたいと思います。皆さま、この一年誠に御苦勞でした。佳き新年を御家族の皆様と共に迎えられますよう祈ります。

平成23年12月28日

弘前大学長 遠藤正彦

「弘前大学チェルノブイリ視察団」がチェルノブイリを視察

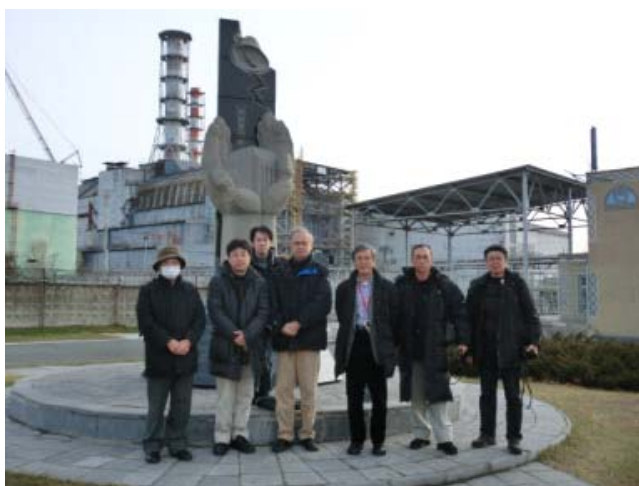
福島県浪江町との連携協定を締結している本学では、今後の福島県浪江町の復旧・復興の方策の参考とするため、「弘前大学チェルノブイリ視察団」をウクライナへ派遣しました。

視察団は、佐藤医学研究科長兼被ばく医療総合研究所長を団長とし、江羅財務・施設担当理事兼事務局長ほか、医学研究科、保健学研究科、農学生命科学部、被ばく医療総合研究所の教員と総務部職員で構成され、12月1日から6日までの日程でチェルノブイリ原子力発電所ほかウクライナ各地を視察しました。

この視察団は、文部科学省、外務省及び在ウクライナ大使館の協力のもと、チェルノブイリ原子力発電所30km圏内への立入りをはじめ、放射線医学研究センター、チェルノブイリ博物館等を視察し、原子力事故による汚染状況やそれらへの対応、被ばくした住民への放射線の影響等、各施設から今後の福島県浪江町の復旧・復興への対策に参考となる多くの情報を得ることができました。

また、放射能汚染地区から避難してきた住民を支援する団体との意見交換も行われ、当時、チェルノブイリ原子力発電所で働いており、事故後はがれきの撤去などに携わった人の証言や、放射能汚染により強制的に移住させられた人々の証言等、貴重な情報を得ることができました。

さらに、ウクライナ滞在中、坂田東一在ウクライナ大使と意見交換をする機会を得、ウクライナと日本の協力関係や、ウクライナにおける原子力発電の現状、被ばく者への政府の対応、日本との教育・研究における連携活動等、日本とウクライナとの関係について多くの貴重なご意見を伺うことができました。



煙突が見える奥の建物が事故のあった
チェルノブイリ原子力発電所4号炉（石棺）



チェルノブイリ博物館で説明を受ける視察団

平成23年度第12回弘前大学FDワークショップを開催

本学は、12月3日（土）、附属図書館ラーニングスペース・スクエアにおいて、教育・学生委員会の主催による第12回FDワークショップを開催しました。

今年度2回目のFDワークショップは、平成23年度特別経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動」の展開として、参加者自らが授業実践を省察して弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ「教育者総覧」の作成及び見直しをするとともに、教育者総覧の作成比率を高めることを主眼とし、「ティーチング・ポートフォリオの見直しで授業改善を」をテーマとして行われました。

各学部等から推薦された教員と他大学からの受講希望者（メンティ）のほか、カナダのダルハウジー大学におけるティーチング・ポートフォリオワークショップで認定書が授与された教員（メンター）が協力者として参加し、参加者は実施スタッフを合わせて23名となりました。

はじめに、神田教育・学生担当理事より「弘前大学における教育改革の現状と課題」と題して講演があり、その後、グループに別れて討議を数回行い、教育者総覧の修正を重ね、各グループ代表者がその修正理由に重点を置いて発表をしました。発表後の意見交換の際には、「授業に臨む姿勢について、教員自らの実体験を加えて学生に向けたメッセージのようにしたことで、抽象的な部分が改善され、学生が理解しやすい内容になった」などの意見もあり、熱のこもった議論が展開されました。ワークショップ終了後のアンケートでは、受講者全員が「価値のある内容だった」と評価しており、本ワークショップは成功裡に終了することができました。



講演する神田教育・学生担当理事



グループ討議中のメンティとメンター

弘前大学男女共同参画推進室 第4回セミナー開催

本学男女共同参画推進室は、12月7日（水）、弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大八甲田ホールにおいて、女性研究者研究活動支援事業の一環として第4回セミナーを開催しました。

講師は、独立行政法人科学技術振興機構男女共同参画主監、日本女子大学名誉教授で工学博士の小舘香椎子氏。「光の研究・教育に魅せられて～未知へ挑み創成する楽しさと人材育成～」と題して講演を行いました。

小舘氏は、「光」をベースに実用的な分野でさまざまに応用されているご自身の研究内容や、教育者として学生たちのモチベーションを上げて成果につなげる数々の工夫、そして学会や大学における男女共同参画推進の必要性と取り組みについて、事例を豊富に交えながらわかりやすく紹介しました。

人と人とのつながりを大切にしながら、3人の子育てと研究・教育を両立させてきた小舘氏の具体的で示唆に富む話に、参加した約70名の学生・教職員は熱心に聞き入っていました。



講演する小舘氏



熱心に聞き入る参加者

弘前大学名誉博士称号授与式を挙行

本学は、12月8日（木）、湯原哲夫氏（東京大学大学院特任教授）に弘前大学名誉博士称号を授与しました。

湯原氏は、本学北日本新エネルギー研究所の前身である北日本新エネルギー研究センターの設置に向けて尽力され、低炭素社会実現に向けて再生エネルギー及び分散エネルギーの重要性を指摘する等、北日本新エネルギー研究所の方向性の決定に当たって主導的な役割を果たしてこられました。

授与式は、神本北日本新エネルギー研究所長より名誉博士号を授与するに至った経緯及びこれまでの功績等について説明があり、遠藤学長から湯原氏に対して名誉博士記を授与いたしました。

そして、遠藤学長が式辞を述べた後、受章された湯原氏から挨拶をいただき終了いたしました。

また、12月21日（水）には、明石真言氏（独立行政法人放射線医学総合研究所理事）に弘前大学名誉博士称号を授与しました。

本学が立地する青森県は、原子力関連施設が数多く存在しており、地域住民の安心・安全確保のため、本学では平成19年から緊急被ばく医療体制の整備に取り組むこととなり、（独）放射線医学総合研究所緊急被ばく医療研究センター被ばく医療部部長（当時）であった明石氏に指導協力を仰ぎました。

その後、保健学研究科教職員による「（独）放射線医学総合研究所」での研修や米国「REAC/TS（Radiation Emergency Assistance Center/Training Site）」への教員派遣等様々な活動は、明石氏の指導、助言によるところが大きく、また、高度救命救急センター設置や被ばく医療総合研究所設置における教員選考においても大きく貢献されました。

それまでの成果が、3月11日に発生した東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所の事故において発揮され、本学が福島県へ「被ばく状況調査チーム」及び警戒区域として設定された地域から避難された住民が、荷物などを取るため一時的に自宅に立ち寄る「一時立ち入りプロジェクト」へ専門知識を持った多くの職員を長期に渡り派遣することが出来たという結果となりました。

授与式は、佐藤被ばく医療総合研究所長より名誉博士号を授与するに至った経緯及びこれまでの功績等について説明があり、遠藤学長から明石氏に対して名誉博士記を授与いたしました。

そして、遠藤学長が式辞を述べた後、受章された明石氏から挨拶をいただき終了いたしました。

本学では、学術文化又は国際交流の発展に多大な貢献があり、本学の教育研究の進展に寄与した功績が特に顕著であった方に対して弘前大学名誉博士の称号を授与しており、湯原氏は、13人目、明石氏は、14人目の受章者となります。



遠藤学長から名誉博士記を授与される湯原氏



遠藤学長から名誉博士記を授与される明石氏

平成23年度 弘前大学研究成果公開シンポジウム 「東日本大震災復興に向けた弘前大学の研究展開」を開催

本学は、『平成23年度 弘前大学研究成果公開シンポジウム「東日本大震災復興に向けた弘前大学の研究展開」～これまでの活動と今後の新エネルギー・環境研究への取組～』を11月26日に東京都港区、12月9日に青森県弘前市内で開催しました。

本シンポジウム開催は平成23年2月に続き2回目となり、今回は今年3月に発生した東日本大震災における本学の原子力災害に対する活動状況と新エネルギー・環境研究についての発表を行い、一般市民・企業関係者など両会場併せて約230名の参加がありました。

遠藤学長の開会の挨拶に続き、第1部『原子力災害に対するこれまでの取組と今後の展開』では、同大学院保健学研究科の對馬研究科長らが、「被ばく医療人材育成の取組」、「被ばく医療に関する取組」、「放射性物質による環境への影響とその対策」、「放射線科学研究による東日本大震災復興への貢献」について、第2部『新エネルギー・環境研究への取組』では、同大白神自然環境研究所の佐々木所長らが、「東日本大震災を踏まえた長期的地震防災力向上プロジェクト」、「青森発東日本大震災復興地熱研究プロジェクトの展開（東京会場のみ）」、「地域エネルギーセキュリティ確保に向けたバイオマス燃料電池システムの開発（弘前会場のみ）」、「世界自然遺産白神山地の学術的活用の試み」について講演を行いました。

会場からは、「東日本大震災以前から被ばく医療等の取組を行っている弘前大学の先見性に驚いている」という声があったほか、それぞれの講演に対して、「放射能に関して青森県の農産・海産物に影響はないのか」、「津軽地域における過去の地震の歴史的データはあるのか」、「地熱発電の電気の買取はどうなるのか」等の質問、「青森県産品は放射能汚染が無く大丈夫だということを弘前大学が中心となってアピールしてほしい」、「放射性物質の種類や危険性等を国民に対して分かりやすく表にした資料を弘前大学が作成してほしい」等の意見も活発に出されるなど、今回のシンポジウム開催により弘前大学が取り組んでいる研究成果を首都圏並びに地元で広く発信する良い機会となりました。



挨拶する遠藤弘前大学長



講演する浅利弘前大学医学部附属病院
高度救命救急センター長

「白神自然環境研究所シンポジウム」を開催

本学白神自然環境研究所では、青森県鮭ヶ沢町・深浦町・西目屋村、秋田県の八峰町・藤里町との共催で「白神山地と環境教育」と題したシンポジウムを12月11日（日）に、秋田県八峰町文化交流センター「ファガス」で開催し、約70名が参加しました。

シンポジウムに先立ち、山岸同大白神自然環境研究所助教が前任地の新潟県稲荷町篠里山科学館「森の学校キョロロ」での環境教育について基調講演を行いました。

その後に行われたシンポジウムでは、世界遺産白神山地をテーマにした環境教育のあり方、白神の自然をどう伝え発信してきたかを共催自治体5市町村の関係機関の代表者を招き、各地での取り組みや課題についての意見交換を行いました。小学生向けに展開している多彩な体験メニューの紹介や、森林官の仕事を子どもたちに体験してもらうことで自然の大切さを学んでもらおうと企画した事業についての報告があり、その上で、参加者対し、今後は環境教育として深めていくことが必要であることや、環境教育として学校行事の一部に組み込んでもらうことなど工夫すべきなど意見があがりました。また、提供側であるガイドの高齢化が進み、若手のガイドが不足しているなどの課題があげられました。

シンポジウムは、ガイド、行政関係者、一般市民等にとって自然環境との関わりをあらためて考える有意義な機会となりました。



基調講演をする山岸弘前大学白神自然環境研究所助教

「学長と若手事務職員懇談会」研修報告会を開催

本学では、12月15日（木）、弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大にて、「学長と若手事務職員懇談会」研修報告会を開催しました。

平成19年度から始まった同懇談会は、毎年メンバーを入れ替えて、学長と本学のさまざまな課題、懸案事項等について意見交換を行っています。

今年度のメンバーは、「他大学等で企画されている研修会へ参加して、他大学の事務職員との意見交換や交流を図ること」を提案し、これを実行に移しました。

このたび、このメンバー主催により、本学事務職員のスキルアップ方策をより充実したものにしていく目的で、研修報告会を実施したものです。

報告会では、「大学職員東北ネットワークサミット（宮城教育大学で開催）」、「大学創生エンジン2011（東京海洋大学で開催）」、「第5回国立大学一般職員会議（名古屋大学で開催）」、「第5回大学人サミットながさきカレッジ2011（長崎大学で開催）」に参加した各職員からそれぞれの研修会の報告がありました。

今回の研修報告会には、約90名の事務職員が出席し、貴重な体験談に耳を傾けていました。



報告会の様子

平成23年度弘前大学FDシンポジウムを開催

本学は、12月22日（木）、弘前大学創立50周年記念会館「岩木ホール」において、教育・学生委員会の主催による平成23年度弘前大学FDシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、平成23年度特別経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」事業の一環として、積極的な教育改善につなげることを趣旨として毎年開催しているもので、風雪を伴うあいにくの天気の中、各学部・研究科、学内共同教育研究施設のほか、県内外の他大学からも多くの大学関係者が集い、講演者を含め約80名が参加しました。

遠藤学長の開会の挨拶に続き、第一部「本学における本格的なティーチング・ポートフォリオ作成の試み」では、神田理事（教育・学生担当）が「本格的なポートフォリオの導入」をテーマとして講演を行い、本学教育改革の取組の一つである「教育者総覧」（弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ）作成の目的や課題、今後の展望について説明を行いました。続いて教育学部長南教授、保健学研究科小山内准教授が「本格的なポートフォリオの作成」について、また、21世紀教育センター高等教育研究開発室田中准教授が「オランダの事例」についてそれぞれ講演を行い、第二部「本格的なラーニング・ポートフォリオの萌芽となる取組」では、教育学部佐藤教授と医学研究科鬼島教授が、部局における取組について講演を行いました。

第一部・第二部それぞれの終了後に行われた総合討論では、ラーニング・ポートフォリオは学生が提出したレポートの蓄積でもよいのか、といったようなラーニング・ポートフォリオとレポートの相違点等について多くの質問が出され、応答する演者との活発な意見交換が行われました。終了後のアンケートでは、「ティーチング・ポートフォリオの必要性が理解できた」、「ティーチング・ポートフォリオの具体的な内容の例を提示してほしい」などポートフォリオ作成に関して肯定的・意欲的な意見も多く、大学全体として効果的なFD活動を展開するための有意義な機会となりました。



開会挨拶をする遠藤学長



講演する神田教育・学生担当理事

■ 諸 会 議

▼役員会

12月 7日（水）

審議事項

- 1 国立大学法人弘前大学職員懲戒等委員会の設置について

12月12日（月）

審議事項

- 1 弘前大学テニューアトラック制度の創設について
- 2 学内諸規則等の一部改正について
- 3 中期計画の進捗状況について
- 4 平成25年度認証評価の実施について

報告事項

- 1 服務規律の遵守について
- 2 平成23事業年度中間決算について
- 3 平成22年度決算検査報告説明会について
- 4 平成24年度弘前大学内地研究員派遣候補者の推薦について

12月19日（月）

審議事項

- 1 弘前大学テニューアトラック制度の創設について
- 2 国立大学法人弘前大学職員退職手当規程等の一部改正について
- 3 平成23年度組織評価に係る申立てについて

報告事項

- 1 「フード・アクション・ニッポン アワード2011 研究開発・新技術部門 優秀賞」の受賞について

12月26日（月）

審議事項

- 1 国立大学法人弘前大学職員懲戒等委員会の設置について
- 2 国立大学法人弘前大学職員給与規程等の一部改正について
- 3 国立大学法人弘前大学職員退職手当規程等の一部改正について

報告事項

- 1 平成23年度内部監査の結果について
- 2 教員個人宛寄附金の経理にかかる調査について
- 3 平成23年度弘前大学研究成果公開シンポジウムの結果について
- 4 平成24年度予算内示について

▼教育研究評議会

12月13日（火）

審議事項

- 1 弘前大学テニューアトラック制度の創設について
-

報告事項

- 1 教員の人事について
 - (1) 教員の採用・昇任
- 2 服務規律の遵守について
- 3 平成24年度大学入試センター試験における本学の志願者割当数について
- 4 平成24年度科学研究費助成事業（科研費）の申請状況について
- 5 平成24年度弘前大学内地研究員派遣候補者の推薦について
- 6 弘前大学出版会百冊出版記念講演会について
- 7 委員会等報告
 - (1) 21世紀教育センター運営委員会
 - (2) 教育・学生委員会
 - (3) 臨時入学試験委員会
 - (4) 第4次臨時入学試験改善委員会
 - (5) 教員免許状更新講習支援室運営委員会・教員免許状更新講習実施委員会合同会議
 - (6) 研究・産学連携委員会
 - (7) 全学教員養成担当実施委員会

▼教育・学生委員会

12月27日（火）

審議事項

- 1 除籍学生の再入学について
- 2 課外活動団体顧問のためのハンドブック（案）について

報告事項

- 1 平成24年度授業開始までの日程について
- 2 平成23年度FD活動について
- 3 卒業生及び企業等アンケート結果について
- 4 学生寮の改修工事について
- 5 平成23年度岩谷元彰弘前大学育英基金選考結果について
- 6 平成23年度後期弘前大学大学院振興基金の選考結果について

▼研究・産学連携委員会委員会

12月 7日（水）

審議事項

- 1 共同研究・受託研究契約の課題と方向性について
- 2 平成23年度研究・産学連携委員会各種委員について

報告事項

- 1 平成24年度科学研究費助成事業（科研費）の申請状況について
- 2 平成24年度弘前大学特別研究員の募集について
- 3 平成24年度弘前大学内地研究員派遣候補者の推薦について
- 4 弘前大学における産学連携に関するアンケートについて
- 5 地域共同研究センター運営委員会の報告について

人 事 異 動

[採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月1日		BIRDSELL BRIAN JON	講師(国際交流センター) [28.11.30まで]
平成23年12月1日		岡本 亜希子	助教(病院) [28.11.30まで]
平成23年12月1日		齋藤 新	助教(病院) [28.11.30まで]

[更新]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月1日	教授(医)	福田 幾夫	教授(医) [33.11.30まで]
平成23年12月1日	講師(病院)	佐藤 哲観	講師(病院) [30.11.30まで]

[昇任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月13日	講師(人文)	上條 信彦	准教授(人文)

[休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月6日	看護師(病院・看護部)	齋藤 暢子	平成24年3月5日まで
平成23年12月11日	課長補佐(施設・整計)	村上 育洋	平成24年3月25日まで

[育児休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月1日	看護師(病院・看護部)	蝦名 知子	平成24年3月31日まで
平成23年12月7日	看護師(病院・看護部)	花田 みずほ	平成24年10月31日まで
平成23年12月10日	看護師(病院・看護部)	小林 加奈子	平成26年3月31日まで
平成23年12月19日	看護師(病院・看護部)	小田桐 佳央莉	平成25年3月31日まで
平成23年12月24日	看護師(病院・看護部)	須藤 里美	平成25年3月31日まで

[復職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月19日	看護師(病院・看護部)	関 照美	休職より
平成23年12月29日	一般職員(農生)	篠村 暁菜	育児休業より

[離職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成23年12月11日	准教授(医)	杉本 一博	
平成23年12月31日	総務部長	野口 一平	
平成23年12月31日	一般職員(人文)	松崎 芙由子	
平成23年12月31日	教授(医)	西條 康夫	
平成23年12月31日	助教(病院)	藤田 浩史	
平成23年12月31日	主任臨床検査技師(病院)	高坂 公博	
平成23年12月31日	臨床工学技士(病院)	下山 葉子	

■ 主要日誌

- 1 2月3日 第12回FDワークショップ
- 7日 役員会
研究・産学連携委員会
- 8日 弘前大学名誉博士称号授与式
- 9日 弘前大学研究成果公開シンポジウム
- 11日 弘前大学白神自然環境研究所シンポジウム
- 12日 役員会
- 13日 教育研究評議会
- 15日 「学長と若手事務職員懇談会」研修報告会
- 19日 役員会
- 21日 弘前大学名誉博士称号授与式
- 26日 役員会
- 27日 教育・学生委員会
- 28日 年末学長挨拶

■ 学内規則等の制定等

(平成23年12月21日制定)

○国立大学法人弘前大学テニユアトラック制に関する規程

文部科学省のテニユアトラック普及・定着事業（科学技術人材育成費補助事業）の採択により、若手研究者が、テニユア獲得に向けて自立して研究のできる環境を整備するため、上記の規程を制定した。

(平成23年12月21日改正)

○国立大学法人弘前大学における教員の任期に関する規程

文部科学省のテニユアトラック普及・定着事業（科学技術人材育成費補助事業）の採択により、テニユアトラック制を導入することに伴い、テニユア付与を受けた教員の任期を規定するため、上記の規程の一部を改正した。

(平成23年12月28日改正)

○国立大学法人弘前大学職員給与規程

○国立大学法人弘前大学契約職員就業規則

○国立大学法人弘前大学パートタイム職員就業規則

人事院規則9-129（東日本大震災に対処するための人事院規則9-30（特殊勤務手当）の特例）が制定されたことに伴い、「災害対策手当に関する申合せ（学長裁定）」に替え、人事院規則に準じて災害応急作業手当を新設するため、上記の規則等の一部を改正した。

(平成23年12月28日改正)

○国立大学法人弘前大学職員退職手当規程

○国立大学法人弘前大学役員退職手当規程

地方公共団体との在職期間について、国に準じ所要の改正を行うため、及び字句の修正等所要の改正を行うため、上記の規程の一部を改正した。

弘前大学学報第93号

弘前大学総務部総務課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172) 36-2111